

秋葉区の住み良い街づくり

— 秋葉山の環境保全につながる“福祉”と“教育”のあり方 —

かつて、人の暮らしと密接に関わり循環していた里山の自然。ところがライフスタイルが変わった今、人の手が入らなくなったことで里山が荒れています。我々の住む秋葉山も例外ではありません。

ではどうすれば今のライフスタイルに合った方法で里山を利用し、環境の保全をできるのでしょうか？

それには、ツル切りやササ刈り、伐採などの必要性はもちろんですが、里山と人とのつながりを再構築することが必要なのではないでしょうか。

里山をもっと有効的に利用し、積極的に手を入れる。そして私たちの暮らしも、里山も、豊かになる。そんな新しい里山利用を“教育”と“福祉”の観点から考え、提案していきたいと思います。



■放置された里山は、次第に植物や生物の多様性が失われます。



1950～60年、燃料革命によって私たちの生活は大きく変わりました。薪や炭を必要としなくなったため大木化した老齢の木が密生し、15～25年周期で伐採し、切り株から伸びた芽を育て、大きくなったらまた切るという萌芽更新が行われず、日が差し込まない暗い林に。

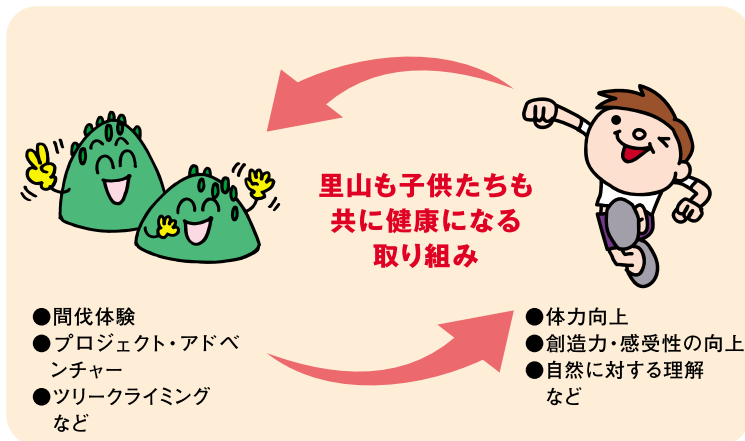


ライフスタイルの変化は、決して大人たちだけの問題ではありません。依存性の高いテレビゲームやインターネットの普及により、子供たちの遊び場も変化しています。しかしそれは同時に子供たちの体力低下や肥満はもとより、創造力や感受性の欠如といった弊害ももたらします。

かつては子供たちの創造空間であった里山を再生することで、子供たちに自然の豊かさや楽しさを知ってもらい、環境に対する理解を深めます。

【ATA (AKIHA TREE&ADVENTURE)】

プロジェクト・アドベンチャー、ツリークライミング、森林づくりなどを通して、子供たちに自然とのつながりを体験してもらおうと同時に、エネルギー循環や生態系などについて、楽しく学んでもらう自然体験教育プログラムです。



■秋葉山自然体験教育プログラム



■ツリークライミング



■金津中学校総合学習の様子



日本の障害者問題、その施策や制度はまだまだ多くの課題を残しております。たとえ障害はあっても、大人としての社会経験を重ねれば、生活者として成長するという視点から見たとしても、実際には社会復帰施設などの設備は充分とはいえません。

そこで秋葉山の環境保全や、使われていない施設などを有効利用することで、障害者たちの自立を支援する方法を考えます。

【例:社会福祉法人 青葉仁会(奈良市)】

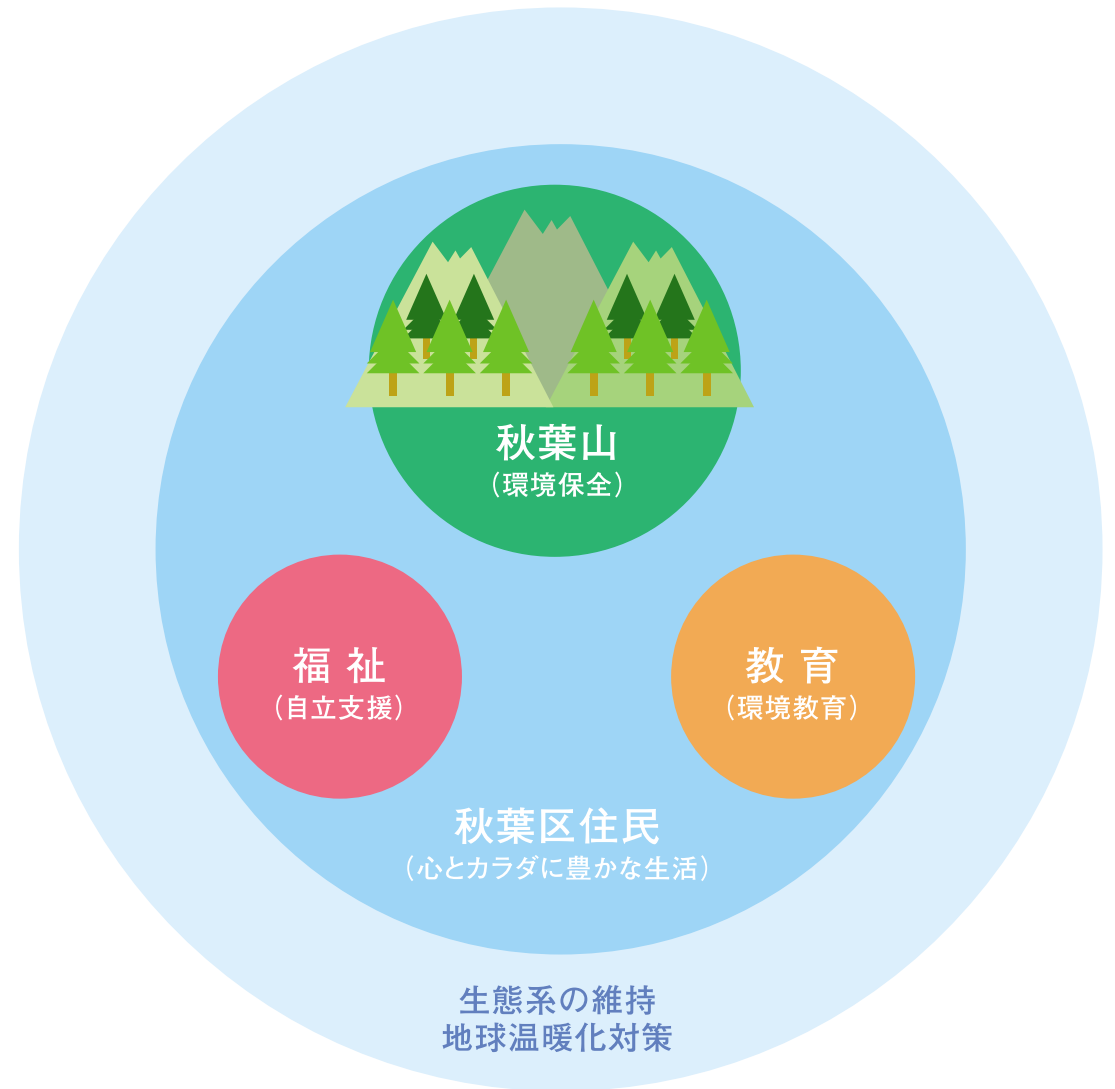
<http://www.aohani.com/>



里山とは、人の暮らしと密接に結びついて循環していた森のこと。燃料となる薪や炭、畑に入れる落ち葉、農具や生活用具、食料にいたるまで、生活に必要なものを森からまかなっていた暮らしがありました。

そして森は、人の手が入ることで豊かな自然のバランスが保たれていました。しかし人々のライフスタイルが変化してしまった現在、

里山の自然を保全するためには、
新しい手法、新しい仕組みを編み出して
里山を利用していく以外にありません。



新潟市秋葉区で、 木質ペレットによる 美しい里づくりが 始まります。

環境問題が叫ばれている今、全国の自治体ではどんな取り組みができるのかが話われています。そんな中、ひと足先に新潟市秋葉区ではそのモデルとなるような取り組みが始められます。それは秋葉山とそこに暮らす一人ひとりが主役の街づくりです。



事業の目的

里山の間伐材の利活用を促進し、木質ペレット化による「バイオマス構想」の先駆的事业推進をする。里山保全を活かして地球温暖化防止や資源循環型社会の形成を目指した、環境にやさしい秋葉区を創造し、全国の手本となる街づくりを実現する。

概要

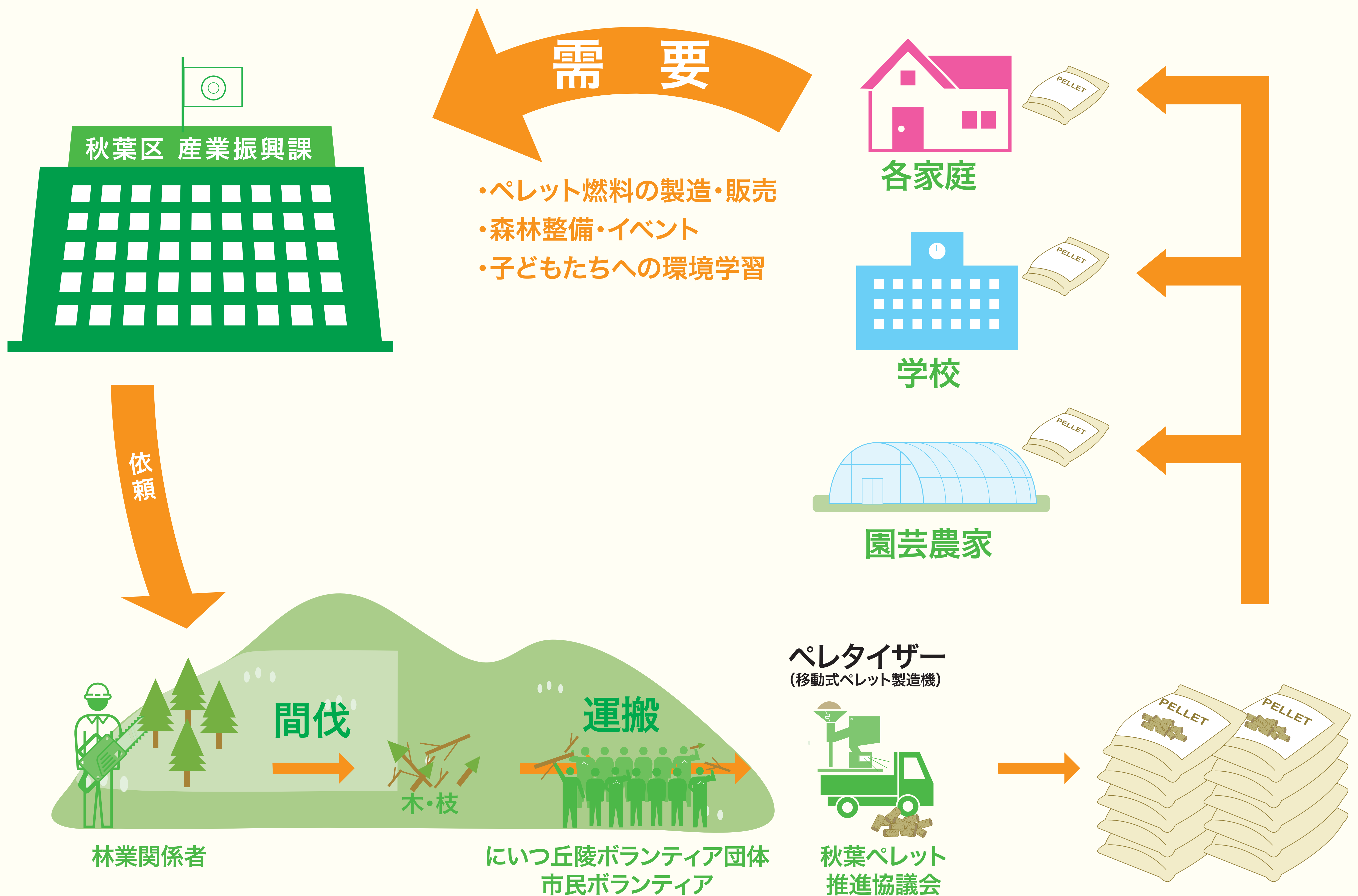
里山の間伐材を木質ペレット化し、化石燃料の代替としてエネルギー利用者（住民・学校・園芸農家等）に供給し、地域内資源の循環利用システムを構築する。

推進体制

新潟バイオリサーチパーク株式会社と、木質ペレット推進協議会が主体となり、産官学とエネルギー利用者・関係団体と連携して、「(仮)あきは木質ペレット推進協議会」を発足する。

木質ペレットによる美しい里づくり — その仕組み —

<ペレットの生産～消費の流れ>



**里山整備がキッカケとなり、
「住みたい街づくり」への好循環が生まれます！**

この「里山整備からペレット燃料供給」までの一連の仕組みが普及するにつれ、新たな需要が生まれます。ペレット燃料の需要は里山整備を促進することにつながり、森林イベントへの需要は、環境学習の促進となります。秋葉区で暮らす人たちが「エネルギー・教育・芸術・文化・アウトドア」における発展を希望する需要の循環が生まれます。これらは秋葉区が目指している「理想の街」づくりの姿といえます。

木質ペレットによる美しい里づくり — さまざまなソフト展開 —

「木質ペレットの里づくり」の成功は、市民からの理解と支持、活動がともなって成立するといえます。そのためにも「楽しみながらできること」、進んで「秋葉山に遊びに行きたい」と思えるイベントやイメージ作り、未来の想像図がとても重要となります。

「全体イメージ像」

秋葉区を、どんなイメージの地域にするか？言葉で言うならば、

「秋葉区は20代～40代のNEWファミリー層にとって、とても高感度なエリアであり、『健康的で環境にも優しい暮らしが出来て、子供を安心して遊ばせられる場所』」です。

かつての「都会暮らしへの憧れ」ブームは一旦終息を迎え、現代の理想の暮らしとされるのは「自然が身近にあって、地球にと子供にもやさしい暮らし」であり、これは秋葉区が持っているインフラを活用すると実現できる生活でもあるのです。

「キーワード」

LOHAS（ロハス）、エコ、オーガニック、アウトドア、アート、不思議の森、

「具体的なプラン」

水と土の芸術祭…ツリーハウスクリエイター 小林崇氏の招聘。
(アートな切り口)

今年、秋葉山には、小林氏のプロデュースによるツリーハウスを作りました。このツリーハウスを何棟か配置し、寝泊まりやバーベキュー（きりん君）のできる集客できるスポットとして昇華させます。



小林崇氏

日本におけるツリーハウスのパイオニア。
ネスカフェのTVCMにも出演。

キャラクター、ストーリー展開…モジャの住む森（こどもへの「不思議な森」切り口）

秋葉山を舞台としたキャラクターを作り物語をつくります。広報マスコットで終わるのでなく、こどもが大好きになるキャラ展開、絵本の制作などを行います。（ジブリの「トトロの森」のように、「モジャの森」として子供にとっての遊び場に）



主人公は森に住む妖精「モジャ」。森や仲間と仲良く暮らせるようにはどうしたらいいかを考えるというストーリー。

「将来的な夢」

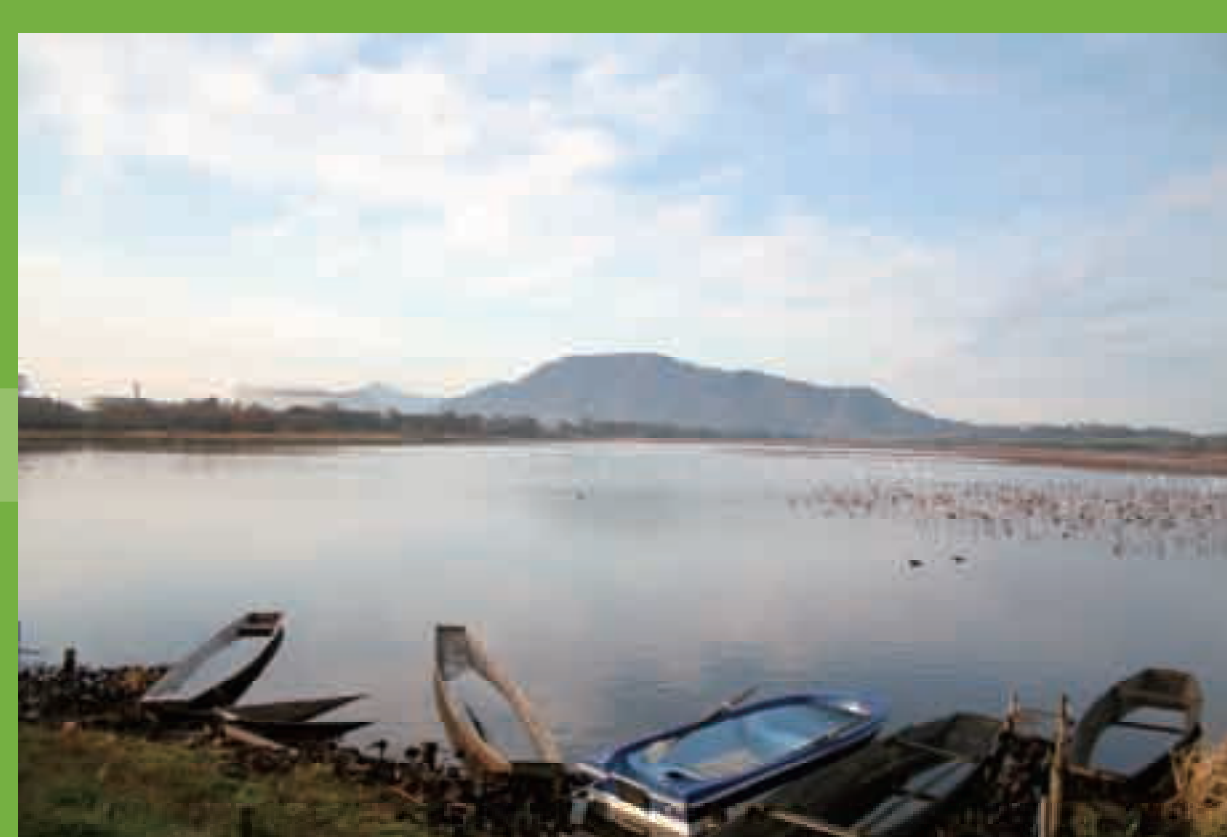
バンクバンド（坂本龍一、桜井和寿、小林武史）によるコンサート。（in 秋葉山）

坂本龍一氏は積極的な環境活動を行っていることでも有名で、自身で自家発電コンサートなども行っています。木質ペレット推進協議会のメンバーであるさいかい産業は、坂本龍一氏のapバンクより、ペレット事業への出資を受けています。世界的に見ても豪華なメンバーであり、環境意識の高いコンサートを、ロハスタウン「秋葉区」で行うことができたならこの街をより誇らしく感じると思いませんか？

エネルギーの地産地消 「佐潟」のヨシをペレットにしました。

2008年11月、新潟市西区の佐潟にて、エネルギーの地産地消の試験が行われました。

佐潟に自生するヨシを住民が刈り取り→乾燥させ→ペレットに変え→同地の佐潟水鳥湿地センター内のペレットストーブで燃焼するというものです。ヨシペレットは見事にストーブを燃焼することができ、佐潟におけるエネルギーの地産地消試験は成功を収めました。今後このような「地元でエネルギーを作り、地元で消費する」という仕組みは本格的に導入されていくでしょう。



ラムサール条約指定湿地の佐潟



佐潟周辺に生えているヨシを住民のみなさんが刈り取りました。



数日間、置いて乾燥させます。



数日後、機械に入れる直前にも機械を使って仕上げの乾燥をします。



まず、破砕機に入れます。粉末状になったものが下から出てきます。



粉末状になったものを、圧縮機へ入れます。



機械の中で圧縮され、ペレット（粒状）が出てきます。



熱をかけて圧縮するので、出来たばかりのペレットはまだ熱い。



熱を冷まして完成です。



佐潟に併設されている、佐潟水鳥湿地センターです。



いよいよ着火の時。ペレットをストーブにセット。



みごと成功！めらめらと大きな炎をあげて燃焼しました。